

令和8年度 第1回 信州幼児教育支援センター運営会議

学びの改革支援課

1 日 時

令和8年4月16日（木） 10:00～12:00

2 開催方法

オンライン開催

3 参加者

【長野県立大学】	こども学科	太田 光洋（信州幼児教育支援センター長）	
【長野県保育連盟】		会長	海野 暁光
【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】		理事長	西片 紀美子
【長野県野外保育連盟】		理事長	内田 幸一
【知事部局】	こども・家庭課	課長	矢萩 由紀子
		保育係長	羽入田 崇司
		担当係長	井出 伊織
		幼保連携推進員	前田 好文
		保育専門推進員	川上 真実
	県民の学び支援課	幼児教育支援専門員	久保田 学
	次世代サポート課	青少年指導主事	田中 健雄
【長野県教育委員会】	教育次長		清水 寛
	教育政策課	主事	望月 美那
	学びの改革支援課	課長	田中 篤
		義務教育指導係長	河西 巧
		指導主事	小林 輝紀
		指導主事	池内 周己
		幼児教育コーディネーター	橋爪 典子

4 内 容

(1) 挨拶：清水教育次長

- ・当センター設置の目的は、園種を越え、「オールながの」の運営体制で、幼児教育の現場を支え、幼児教育の質の向上を図ることにある。第4次長野県教育振興基本計画で掲げている、【「探究県」長野の学び】の根幹は幼児教育、とりわけ遊びにあると考えている。幼児期における「遊びを通した総合的な指導の充実」が、「学びの改革」の基盤となることから、当センターの役割は極めて重要であると認識。「遊びを中心とした保育の充実」と「円滑な園小接続」を目指し、今年度も様々な研修を計画している。
- ・「円滑な園小接続」においては、本年度、県として小学校1年生における25人規模学級を実施したところ。小学校1年生の25人規模の利点を最大限生かすためにも、幼児教育支援センター運営委員の皆様のもつ知見を存分に発揮していただき、小学校1年生の学びの充実につなげていただくことを期待。
- ・本日は、皆様から御意見をいただくことで、本年度のセンターの事業の運営の方向を明らかにしていきたい。忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願ひしたい。

(2) 協議

① 令和8年度信州幼児教育支援センター運営事業について

【小林指導主事】(具体的な事業説明)

- ・センターの設置について

【太田センター長】

- ・運営事業について、質問等。

(質問なし)

② 令和8年度信州幼児教育支援センター運営方針及び事業内容について

【小林指導主事】(具体的な事業説明)

- ・遊びを中心とした保育の充実について
- ・園小接続の充実について
- ・自立して学び続ける保育者の育成について
- ・県内の園小接続については、課題が多いと認識
- ・学校改革支援センター事業、信州 2525 (にこにこ) プラン事業、ウェルビーイング実践校 TOCO-TON 事業等に係る事業との連携を図りたい

【池内指導主事】(学校改革支援センター事業説明)

- ・信州 2525 (にこにこ) プラン事業について

【太田センター長】

- ・令和9年度も見据えた園小接続の充実について見通しをもつことが重要と認識。

【海野会長】

- ・園小接続の取組が十分に広がっていないと感じている。いわゆる「笛吹けど踊らず」の状況が続いている。長野県の特徴として公立保育所が多く、小学校もほぼ公立であることから、公立同士の接続が中心となり、私立園を含めた広がりにはなかなか至っていないのが現状である。この点について、何らかの取組ができないかと考えているところである。
- ・「信州 2525 (にこにこ) プラン事業」が楽しそうだと感じており、そうした場に関わることで接続の広がりにつながる可能性もあるのではないかと考えている。

【小林指導主事】

- ・園小接続の取組が広がりにくいという点については、海野会長の指摘に同意。一方で、先生方の中に園小接続が重要であるという認識は確実に存在している。そのため、具体的な実践に向けて一歩踏み出すための後押しを行うことが重要である。

【太田センター長】

- ・私立園と小学校との接続については、特に都市部で複数の園から一つの小学校へ進学するケースが多く、どのように連携を進めていけばよいかの分かりにくいという課題がある。また、小学校側も地域の園とどのような形でつながっていけばよいか判断が難しい状況が見られる。こうした点に大きな壁を感じるため、地域・園・学校が連携して取り組んでいる事例を提示できると、各現場が取組を進めやすくなるのではないかと考えている。

【小林指導主事】

- ・そういった課題がある中で、園とつながりたいという思いはあるものの、具体的な進め方が分からず悩んでいる学校が多い。まずは最も近い園とつながるなど、「できない理由」を探すのではなく、「できる理由」を見つけて小さくても一歩を踏み出すことで、私立・公立に関係なく園小接続の取組は進められるのではないかと考えている。

【太田センター長】

- ・今年度、大きな変化として25人学級の取組が進められており、この動きは園小接続とも関連する。小学校における授業内容や進め方の見直しも求められる中で、センターとして貢

献できる部分が多くあると感じている。

【内田理事長】

- ・自走型の園内研修の地域公開について、年度の方向性として示されているものの、具体的なイメージがまだもてていない。自走型の園内研修とはどのような方向性を指すのか確認したい。現状、園内研修はミドルリーダー経験者等が支援しながら進めているが、今後は園が独自に行う研修を地域に公開していくというイメージでよいのか、その点を教えていただきたい。

【小林指導主事】

- ・ミドルリーダー研修経験者やフィールド研修で公開を行った園が、その年度限りで終わらず、継続して取組を進められるかどうかを課題としている。今年度で終わりとしないよう、継続的な自走につなげたいと考えている。

【海野会長】

- ・昨年度、中信地区の園の職員が1回目のフィールド研修に参加し、その後園長に就任した際、研修で見た保育を自園で実践したいと考えたが、職員にうまく伝わらなかったため、再度訪問したいという相談を受けた。結果として、全職員が5日程度に分けて来園し保育を体験した。
- ・そのほかにも、研修や見学のために来園する園が増えており、「フィールド研修で学んだ内容を実践している」「以前見学した内容を参考にしている」といった声が寄せられている。また、長野県保育研究大会で発表した際にも、研修に関わった園が再度見に来るなど、継続的なつながりが生まれている。
- ・一部ではあるが、各園が外部に出向いて研修を行う動きも増えてきており、一定の広がりを実感している。

【内田理事長】

- ・海野会長の説明を受け、こうした動きが各園でより活発になるよう、さらに働きかけを行う必要があると感じた。

【西片理事長】

- ・海野会長の発言に関連し、園訪問をより気軽に行える環境づくりが重要であると考えている。学校においても、初期の交流から連携、接続へと段階的につながっていけばよく、「今少し時間が空いたので見せてほしい」といった関係性が築けることが望ましい。
- ・当協会においても、知り合いの園であれば「見せてほしい」と訪問してくれるケースはあるが、園種を超えた訪問が難しくなっているという現状がある。遊びを中心とした保育の充実を図る観点からも、気軽に訪問できる環境は重要であると考えている。
- ・今年度、近隣の小学校で1年生が企画した探究的な活動としてのお店屋さんごっこに招待され、少人数で参加したところ、担当が「小学校でもこのような授業が行われている」と大きな感動を得て帰ってきた。このような交流の機会は有意義であると感じている。

【太田センター長】

- ・気軽に行き来できる関係性や、互いの園を見に行ける環境づくりが重要であると考えている。公立と私立といった園種の違いが壁となっている面もあるが、「園を公開している」「見学を受け入れている」といった情報を発信できると、訪問しやすい環境につながるのではないかと感じている。センターで情報を集約し、積極的に受け入れている園を紹介するなどの発信も有効であると考えており、今後検討していきたい。

【池内指導主事】

- ・小学校・中学校においても、訪問の在り方を見直し、研究委員会として新たな取組を進めている。指導助言を一方的に行うのではなく、先生方自身が研修を企画し、それをサポートする形の校内支援サポートを開始している。こうした伴走支援を園にも広げていくこと

が重要であると考えている。

- ・私立園を巻き込む観点から、幼年教育の教育課程づくりや、小学校教員との授業づくりを共に行う取組は非常に有意義であると感じている。今年度は「超（スーパー）1学年会」が開催されるため、そこで研修の取組を広く紹介し、私立園の教員も含め、多様な教員が協働して学び合う機会を充実させていきたいと考えている。協力をお願いしたい。

【太田センター長】

- ・「超（スーパー）1学年会」に園の先生を招き、話を聞く機会を設けることも有効であると考えている。現在の一年生担任の集まりは年度で区切られるため、翌年度に再び一年生を担当する際に学びが直接生かされる一方、年度途中で研修を受けても、その年の実践に反映しきれない場合がある。研修の在り方についても工夫の余地があると感じている。
- ・信州幼児教育支援センターではこれまで保育士確保を中心的なテーマとして扱ってこなかったものの、研修や保育内容の充実を考える上で、保育士確保は大きな課題となっている。こども・家庭課における取組について紹介いただきたい。

【羽入田保育係長】

- ・保育士確保は、園小接続や保育の質向上の前提となる重要課題であり、当課として今年度も各種施策を実施する。
- ・県外保育士確保事業として、移住支援金、就職活動支援、県外保育士セミナーを継続実施する。移住支援金は市町村と連携し、県外からの就職者を支援する。
- ・保育士修学資金貸付事業では、養成校学生への貸付と、一定期間勤務による返還免除を行う。現職保育士・保育補助者向けの貸付制度も継続する。
- ・保育士・保育所支援センター事業では、潜在保育士の復職支援、マッチング、就職相談会等を実施する。
- ・保育の魅力体感事業では、高校生等が複数園を訪問し保育の魅力を体験する機会を提供する。今年度は保護者・進路指導教諭も対象に加え、SNS発信も強化する。
- ・風通しの良い職場づくり研修事業では、若手とベテランの保育観の違いの調整や、カスタマーハラスメント対応などをテーマに、保育士全般を対象とした研修を実施する。

【内田理事長】

- ・保育士の賃貸住宅に対する補助について、市町村ごとに実施状況が異なると感じている。自身の法人では、飯田市の園では制度が利用できる一方、茅野市の園では実施されておらず、同じ法人内でも扱いが違う状況がある。
- ・こうした違いは保育士の給与や待遇にも影響してくると考えている。園として住宅補助は行っているが、借上げ事業と連携できれば園の負担が軽くなり、保育士確保にもつながるのではないかと考えている。
- ・市町村と県の間で、このあたりの調整がもう少し進むとありがたい。

【羽入田保育係長】

- ・保育士宿舍借上げの補助は、市町村によって実施状況が異なる。国の補助金の仕組み上、この事業は市町村が実施主体となっており、県として一律に実施する形にはなっていない。
- ・保育士確保においては、処遇面だけでなく生活環境への支援も重要だと考えている。県内で実施している市町村の取組については、今後、市町村との会議の場などで情報共有を進めていくことを検討している。

【西片理事長】

- ・保育士確保が喫緊の課題であると感じている。資料には全県実施と記載があるが、地域によって状況が大きく異なると感じている。県が進めている保育の魅力体感事業について、バスツアーの実施地域がどの範囲になるのかを伺う。
- ・松本地域では、養成校の入学者数が大きく減少しており、これも課題になっていると考え

ている。県下でどの程度の規模で事業が展開されるのかを把握したい。

【羽入田保育係長】

- ・魅力体感事業は、北信・東信・中信・南信の各地域で実施する方向で準備を進めている。訪問する園については、各園との調整が必要なため、現時点で具体的な市町村までは確定していないが、県内全エリアでの実施を想定している。
- ・養成校の学生数が減少している状況についても認識している。昨年度に続き、養成校との連携を強めながら事業を進めていきたい。

【内田理事長】

- ・見学を希望する場合、当園はいつでも受け入れが可能であり歓迎している。見に来てもらうことについては大変ありがたく、遠慮なく声をかけてほしい。

【太田センター長】

- ・養成校に所属する学生の学費に対する支援について、私立大学が公立化することで学費が大きく下がり、結果として学生数が増える例が県内にもあると感じている。学費の負担軽減が養成校の状況改善につながる可能性がある。
- ・また、保育者に限定しないキャリア教育の取組について、他地域では子供がさまざまな職業に触れられるイベントがあり、保育や学校関係のブースも設けられている例がある。中学生が保育関係のブースに多く集まるという話も聞いており、こうした場で保育や教職の魅力伝えることに可能性を感じている。
- ・小中学校教員の不足も懸念されていることから、教育委員会としてもこうしたイベントに参加し、ブースを出すことができればよいと考えている。支援センターだけでなく、他部局との連携も必要であり、より大きな枠組みで検討していくことが望ましい。

③ 幼児教育関係課の取組について

【久保田幼児教育支援専門員】（事業説明）

- ・令和8年度研修講座一覧および研修計画について
- ・園種を超えた研修公開について
- ・園小接続に関する研修の継続実施について

【田中青少年指導主事】（事業説明）

- ・長野県発達障がい情報・支援センターについて
- ・発達障害サポートマネージャーの配置について
- ・動画ライブラリーの公開について

【羽入田保育係長】（事業説明）

- ・保育士等の資質向上事業について
- ・信州自然保育（信州やまほいく）に係る研修について

【小林指導主事】（事業説明・特別支援教育課資料の代読）

- ・特別支援教育サポートチームによる小・中学校支援について

【太田センター長】

- ・全体を通しての意見・質問等。

【海野会長】

- ・発達障害について、後天的な要因にも関心をもっている。特に、乳幼児がスマホで動画を長時間視聴している状況が気になっている。入園時に心配になる子が明らかに増えていると感じている。
- ・海外ではスマホ利用に対する規制が進んでいるが、日本ではほとんど進んでいない状況がある。対処療法的な対応だけでは限界があり、早い段階での取組が必要ではないかと考えている。

- ・また、保育に限らず、小学校教員のなり手を増やすことも重要であり、人と関わる経験の大切さを中高生の段階から積むことが必要だと考えている。中高生が乳幼児、あるいは低学年の子供と触れ合う機会をつくることで、人との関わりの重要性や子育て・教育の価値を実感できるのではないかという思いがある。介護や看護など、人と関わる職業の理解にもつながると考えている。
- ・こうした取組を全県的に進めることができればよいと考えており、教育政策課にも政策として取り入れてもらいたい。

【内田理事長】

- ・海野会長が挙げた点について、自身も懸念をもっている。人間関係の形成や異年齢での交流は、学校段階でも重要であり、幼児と小中学生が関わる機会を広げていくことが必要だと考えている。
- ・将来的に保育士や教員を目指す若者にとっても、人との関係性を経験しないまま職業に就くことには難しさがあると感じている。子供の頃から異年齢での交流を経験し、関係性の中で課題を解決していく機会があることが望ましいと考えている。
- ・こうした取組を県の教育の方向性として検討してもらいたい。

(3) 事務連絡

【小林指導主事】

- ・次回の運営会議 令和8年10月22日(木) オンラインにて開催予定

挨拶：田中学びの改革支援課長

- ・本年度、県教育委員会として小学校1学年における25人規模学級の実施という新たな一歩を踏み出したところ。今後、県内の1年生担任を対象とした「超(スーパー)1学年会」も開催し、教員間のミーティングを行う予定である。こうした県の取組に対し、幼児教育支援センターの委員の皆様のご知見をぜひお借りしたい。
- ・幼稚園・保育園の諸先生方に関わっていただくことで、議論にあった園小接続を推進し、県内の幼児教育から義務教育段階に至る子供たちの学びの充実につなげていきたいと考えている。引き続きのお力添えをお願いしたい。